

KiKiの広場

2024年 1月 1日
cafe NO.159
KiKi



あけましておめでとうございます！

「**ヒストリア宇部**」がオープンして、2度目の「辰年」です。十二支の中では唯一の架空の生き物ですが、中国では非常に縁起の良い神聖な生き物とされています。2024年の「辰」は「甲辰（きのえたつ）」。「甲」は草木の成長を表す意味があり、植物が成長するようにどんどん勢いを増して増えていくという意味があるそうです。今年の卯年は準備の年で、今年はその準備した結果が実を結ぶ年になると言われています。もちろん、これまで努力をしていなければついてこない結果です。小さなことでもコツコツと日々積み重ねてきたことが、実を結んで成就できるよう、さらなる努力をし続けていければと思います。みなさま、今年もどうぞよろしくお願いたします。

1月の予定

休館日	9日(火)
定休日	毎土・日・月曜日
年末年始休み	29日(金)～4日(木)



「気まぐれシェフのKiKi オリジナルシフォンケーキ」

「**黒蜜きなこのシフォンケーキ**」 300円

きなこの優しい味に、相性抜群の黒蜜をとろ～り。ほっこりした気分になれる「**和**」のシフォンケーキです。
お正月にぴったり！！年の初めにどうぞ！



今月のお気に入り…「いろいろな冬を楽しもう！！」

～「みるなのくら」「ふゆめがっしょうだん」「ね、うし、とら…十二支のはなし」「だんろのまえで」「てぶくろがいっぱい」など～



「みるなのくら」は、再話が小澤俊夫さん、絵が赤羽末吉さんです。福音館から出た2人のコンビの昔話は5冊ありますが、この作品の翌年赤羽さんが亡くなっているため、赤羽さんにとって最後の昔話です。蔵ごとに、日本の四季がとても美しく描かれています。若者が、「みるな」と言われた12月の蔵まで、一気にいってしまう気持ちがわかります。12月の蔵とは？そして若者ははたしてどうなるのでしょうか？

今月の本棚…「今年の干支 りゅうが出てくる絵本」

～「ほしになったりゅうのきば」「りゅうのめのなみだ」「てんりゅう」「アレキサンダーとりゅう」「りゅう」「エルマーとりゅう」など～



「ほしになったりゅうのきば」は、再話が君島久子さん、絵はまたしても赤羽末吉さんです。中国の民話ですが、読んでいくうちに、絵本の域を通りこして壮大な物語を目の当たりにしているような気持ちになります。これでもかという民話の面白さと、赤羽さんの絵のスケールの大きさにワクワクします。最後のページに出てくる、竜の争いによってできた天のさけめをつくろってできた天の川、ただただ美しいです。

ほっとフレイク

暮れに岡山の大学生の方が来館されました。来られる数日前に連絡があり、銀行だった建物をどのように再利用しているか研究しているとのことでした。一通り建物を見学されて、ホールや交流室の利用状況など熱心に聞かれました。他にもかつて銀行で残った建物をいろいろ見て回っていると聞かれたので、どのように活用されているか聞いてみました。すると、市の委託ではなく商工会議所の運営で、月に1度程度「マルシェ」のような形で運営されたり、時折展示会などの利用があったりするところもあるそうですが、「**ヒストリア宇部**」のように「ホール」や「交流室」が、ここまで活用されているところは初めてと驚かされていました。銀行という他と違う建物を、市民の集う場所として活用できたという想いで勉強されているそうです。まさしく、13年前、「**ヒストリア宇部**」も、「**広げよう市民(ひと)と地域(まち)のネットワーク**」という想いを掲げてオープンしました。

帰り際に、「とても参考になりました。ありがとうございました。」と、深々と頭をさげて帰って行かれました。心から応援したくなる希望を感じましたが、同じ志を持った未来あふれる若者の言葉や姿に、逆にこちらの方も、まだまだこれからも頑張れよと背中を押された気がします。短い出会いでしたが、とても勇気をもらいました。